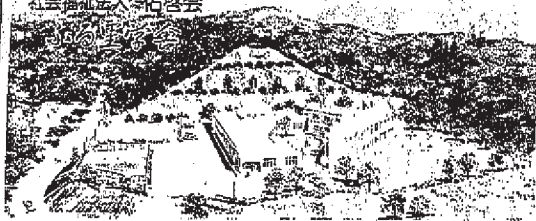


社会福祉法人佑啓会

佑啓

社会福祉法人佑啓会 ふる里学会
〒290-02 市原市今富 1110-1
☎0436-36-7611
発行 者 里 見 吉 英
編集 者 三 股 金 利



展 開

里見 吉英

寒くなればなつたで、レジャーを楽しむ施設職員。

常に体を動かしてないといふのが、この世界のパターンなのだが、本人このままでいいのだと思つたのかどうか。再度得業技を駆使し、姉妹職員まで舞い戻り、約半日歩きとおして学舎に帰つてまいりました。「オーイ、オーイ、Kです。」夜の十一時を回つて寝静まつた寮をまわりながら職員を起こしたそうです。風体は以前学舎に理事さんと一緒に来た時よりも、更に身すばらしく宿直の職員は何も言えず、ゆつくり床につかされたそうです。このKさんにとつて学舎がある里になつてくれたのか、はたまたなつてしまつたのか。翌日、私も市のケイ・スウィーカールさんも複雑な思いがしたのこの世界に浸りすぎてしまつたせいでしょうか。

本人の弁「黙つて出てしまつたのはいけない。理事さんと約束した。でも出てしまつた。」更に問ひ詰めるワカバさんに「ここに泊まる。」とばかり。本人はちよつと仕事を捜しに行つたというくらい軽い気持ちで出たようでした。他人が見れば冷房完備で食事の心配のない生活のどこに不満があるかと考えてしまひますが、数十年前の人生観がきつとあるのです。

我々が時にバレーボールや、ボウリング、スキーを楽しむのと同じ様に、彼は上野公園の放浪を楽しんできたのでしょうか。「今度出かける時はお小遣いを持つて出かけた。」と、つい口にしたくなりますが、それは彼の為にならぬといふことは明白です。また、お金を持たせて厄介払いしたとの批判を受けかねません。話はさて置きこのように生活面さえしかり見ることができれば、

働いて自立できる知的障害の方は沢山います。今までは重度者ばかりに目がいき、軽度の方達の処遇はどうかという、置き去りにされてきた感があります。そこで厚生省は、数年前よりグループホームを制度化し第二種の社会福祉事業として認定しました。この制度は簡単に言えば、民間のアパートに四人〜七人単位で生活を共にし、そこから企業へ出勤するという形態です。食事や生活面は世話人さんと呼ばれる人が当り、施設は総合的にバックアップするという制度です。ふる里学会も姉妹寮から歩いて数分のところに高沢食装さんのご厚意により、一戸建ての住宅を借り上げることができた。この四月一日の認可に向けて関係機関と協議中です。

更にもう一つ、家庭で暮らすことはできるのですが、日中行き場がなく欲求不満が募り、様々な問題行動を起こしてしまうというような方達。その方達のために通所部門を作業棟新設に伴い開設しようと考えています。このような事業はもう少し時間をかけてと考えていたのですが、知的障害の方達を取り巻く環境は想像以上に厳しくこのように早い段階での実施となつてしまいました。若さ故の先走りとは思いますが、可能な限り社会との接点を求め、職員と共に前向きに歩んでいこうと考えています。

今後も温かいご支援よろしくお願い致します。

働いて自立できる知的障害の方は沢山います。今までは重度者ばかりに目がいき、軽度の方達の処遇はどうかという、置き去りにされてきた感があります。そこで厚生省は、数年前よりグループホームを制度化し第二種の社会福祉事業として認定しました。この制度は簡単に言えば、民間のアパートに四人〜七人単位で生活を共にし、そこから企業へ出勤するという形態です。食事や生活面は世話人さんと呼ばれる人が当り、施設は総合的にバックアップするという制度です。ふる里学会も姉妹寮から歩いて数分のところに高沢食装さんのご厚意により、一戸建ての住宅を借り上げることができた。この四月一日の認可に向けて関係機関と協議中です。

更にもう一つ、家庭で暮らすことはできるのですが、日中行き場がなく欲求不満が募り、様々な問題行動を起こしてしまうというような方達。その方達のために通所部門を作業棟新設に伴い開設しようと考えています。このような事業はもう少し時間をかけてと考えていたのですが、知的障害の方達を取り巻く環境は想像以上に厳しくこのように早い段階での実施となつてしまいました。若さ故の先走りとは思いますが、可能な限り社会との接点を求め、職員と共に前向きに歩んでいこうと考えています。

今後も温かいご支援よろしくお願い致します。

「ふる里学舎」の設計にあたり

岩瀬 満

「ふる里学舎」の位置する市原市今富地区は、前方に東関東自動車道路の開通を控え、忙しく土砂を積んだ大型タンクが走り回す中、一羽独りの静寂さを漂わせる丘陵地である。JR姉妹寮駅から至近距離にあり近い将来発展が予想される。私が現地を見た時の印象であった。自然に恵まれた地に古川理事長、里見施設長の長年の夢である援護施設としての「ふる里学舎」をいかにつくり上げていくか、そしてノーマライゼーションの思潮をどのようなコンセプトで計画に盛り込んでいくかが、基本案をつくっていく上でのポイントであった。そして既に出来上がっている施設をいろいろと見学させて頂きながら、自分なりに出来上がるであろう建物の形を頭の中であれこれと想像してみた。しかし、どうしても今までによくありがちなヨーカー型の建物をつくるという発想は浮かんでこない。

恵まれた環境、そして施設建設に携わっている方々のご理解を頂いて今までになく新しい試みをしていこうという事で意見が一致した。そして、思考錯誤の末、計画案として出来あがつたのが、管理棟と居住棟は、中庭を挟んで明確に分けると、居住棟では寮生が安心して住めるよう、そして柔らかなさを演出できるように、二つの中心をもつ山線の組み合せとした。又、地域との交流が図れるよう食堂から中央ホール、そして中庭へと、建物全体が地元の人々をも歓迎できるように、可動間仕切りを使い大空間が確保できるようにした。ここを利用し、露店が並び寮生と地元の方々との交流の場が生

まれることを期待したい。色彩計画についても、周囲の自然と相入る様に、深みのある黄土色にした。それも現地でいろいろ試し塗りをした上で決定された。(多少の反対意見もあったが...)設計を進める上でも常に、そこで生活する寮生の気持ちを考えて、使い易い施設を目指した。とかく、「福祉の世界は遅れている。」とはよく聞く語である。それはハード面、ソフト面両方のこと。は思うが、そこに携わった人々のみならず、市民一人ひとりが福祉のあり方について考える場を提供できれば、設計者冥利に尽きるといふものである。何れともあれこの建物が寮生、職員はむろんのこと、地元の方々から「黄色い学舎」というニックネームと呼ばれ、いつまでも親しみ愛されることを願つてやまない。そして、今後の福祉施設のあり方に一石を投じることができれば幸いである。



（編）アーバンスペース
建築設計事務所
専務取締役

「成人おめでとうございます」と、着物や写真館からのダイレクタメールが届く。昨今では、子供の顔を写っている、一人の大人としてみることはなかなか出来ません。新年会と一緒に、思いも掛けず立派な成人式のパーティを開いていただき、本人もまた大変嬉しく思ったことでしょう。ふる里学舎の先生方には、早朝より準備して頂き、親でもなかなか出来ない心温まる会は、一生の記念となりました。綺麗な花束とステキな時計を頂きとても嬉しかったです。

誰かで感謝を申し上げます。子供を育てていく中で、大人として成長させたかと言えば、私は社会人として通用できるように育てられなかった反省のみが残っています。成育歴を顧みるとき幼年期、青年期に乗り越えられなかった壁が、いまだに尾を引いて「あの時こうしていれば」と何回思ったことでしょう。

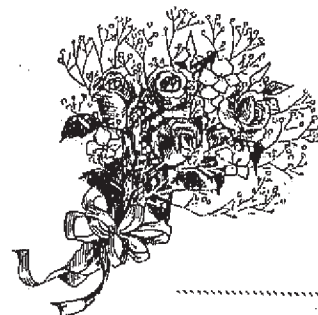
子供は親を選べないと同時に、

去る十二月十九日、ふる里学舎で初めての忘年会が行われました。一年の労をねぎらうと共に、寮生・職員と地域の方との交流を深めることが目的でした。それに沿えるよう、また一年の締めくくりということもあり、職員一同一念に準備を進めていきました。

地域交流委員会としては、この忘年会に地元の方々、並びに老人クラブの方々に楽しいひとときを過ごしてもらえたらとお誘いを掛けました。新しい施設の見学をおし、入所者と接する機会を持つていただくことにより、福祉施設

我が子が成人して

佐々木綾子



親も子供を選ぶ事が出来ません。もう一回やり直したいと思うことがしばしばですが、人生は一度きり。過去があるから、現在があるのだから、と前向きに頑張っていると思います。

本人も二十歳になり、大人の仲間入りをしたという事が少しは分かっているのだらうと思います。先日会ったときに「大人になったのだから、お父さんと同じ様にビールが飲める」と、成人式のときにいただいたビールの味が忘れられないようでした。

これから、重複障害者ですが、諸先生方の指導のもとに生活できれば良いと願っております。

どうぞ、よろしくお願い致します。

忘年会を終えて

地域交流委員会

とはどのようなものか知ってもらえたらということ念頭に委員会を重ねました。

六月に行われた開所記念パーティでは、地元のカラオケグループの方々に歌を唄っていただき、また、今回も同様にプログラムの一つとして地元の方々に演奏をしていただきました。演奏が始まるとすぐに前に出て踊り出す寮生、手拍子を打つ寮生、皆それぞれに演奏に耳を傾け、とても楽しそうでした。このような入所者の姿を見て、多少なりとも雰囲気を感じて頂けたのではないで

しょうか。

四月に開所したばかりでまだ日も浅く、何もかも駆け出しの施設なので至らないことも数多くあるかと思えます。これから行事に限らず、いろいろな活動をとおし地域の方々との交流を深めていきたいと思えます。そして、地域に根ざす施設づくりを目指すために今後このような企画を多く計画したいと思えます。

指導員助手 矢吹 美香

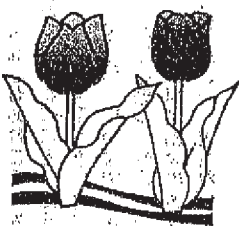
私はこの一年間、学舎の中では、障害の重い寮生を担当してきました。作業班で言うところのD.B班になりました。班員は十六名で構成されています。作業班と言っても自分の意思で働くことの出来る人は少なく、全体的に声かけを必要とします。作業の着脱、靴の履き替え、集合し挨拶することさえ十分とは言えないメンバーが多く、どちらかと言うと生活指導的な要素が多く盛り込まれています。

作業内容は、毎日一万歩以上歩くことを目標とした体力強化、温室や学舎内の耕地を利用した花と農作物の栽培、竹や腐葉土を運ぶ運搬作業、食堂とホールを中心に雑巾がけを行う寮内清掃等が主な仕事です。開所当時は私達も何をすれば良いのかわからず、手探りの状態からスタートしました。現在の作業内容は思考錯誤の中から生まれ定着していったもののようです。

〇さんは、最初歩くことも嫌がり、日中座っているだけの状態でした。しかし、体力強化に重点を置くとにより、今では職員と手を繋いで毎日一万歩以上を大要早く歩けるようになりました。猫背きみだつた姿勢も徐々に良くなり、みるみる体力が着いてきました。〇君も最初は何をやらせても嫌がり氣にいらな

一年を振り返って

障害の重い方たちと
作業を通して学んだもの



すぐ手を噛む自傷行為が見られましたが、今では水の入ったポリタンクを持ち、水撒きの手伝いをしてくれるようになりました。他には水撒きが仕事として定着したY君、一輪車で運搬が出来るようになったE君、竹や雑草を進んで運んでくれるM君とT君、雑巾がけが上手になったT君とT君等、皆何か一つは作業をこなせる様になりました。

私達にとっては、些細なことなのですが、彼等にとっては大きな成長です。こうした喜びをこの一年間で実感し、私自身も同時に成長させてもらうことが出来たことを感謝しています。

指導員 高嶋 国幸

今年新たに調理員として働くことになりました。永野みつさんを紹介いたします。

永野さんは、長年給食センターに勤められていたベテランです。食事時間が更に楽しみなります。今後の活躍を大いに期待しています。

庶務係長 長良 幸男

ふる里学舎に就いて、一ヶ月足らず、今までは違う調理法を学ぶ事が多くあります。よろしくお願ひします。

調理員 永野 みつ

紅梅集後記

先日の大雪では、身動きできず、職員も施設に泊まり込む状態になってしまいました。結局、雪見酒にて夜を過ごすこととなりました。だが、雪灯りに映る建物は、どこか幻想的な雰囲気がありました。

翌朝は、六時から雪かきを寮生にも手伝ってもらいました。銀世界の中吐く息は白くスコップを持つ手にも力が入りました。

春遠からじ。

飯田 俊男